



# みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)

<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

●発行：2016年9月 医療連携センター

## Contents

- 大腸外科10年の歩み ..... 1
- 脳神経外科  
ーニューロライン開始しましたー ..... 2
- 小児のアレルギー診療と  
アレルギーセンター事業 ..... 3
- 新任医師のご紹介 ..... 4
- DPCII群病院の指定を受けました ..... 4

## 大腸外科10年の歩み

大腸外科 副部長 中 蔦 雅 之

平成17年4月の当院開院以来、平成27年4月で10年経過しました。現在までに、大腸外科では、原発の結腸直腸癌に対して1500件を超える切除術を施行しております。平成27年度は開院以来最多の年間166症例の手術を施行し、今年度も昨年度を上回るペースで手術を施行しております。現在は、中蔦雅之（平成14年熊本大学卒、副部長）と柿添学（平成16年秋田大学卒、医長）の2名を中心にチームを組んで診療を行っております。腹腔鏡手術の割合は、開院当初は10～20%程度にとどまっていたのですが、ここ数年で急増し、平成27年以降は80%以上です。腹腔鏡手術の安全性を心配する声もありますが、開腹手術への移行率は1%以下です。以前の開腹手術の症例と比較して合併症は減少しており、安全に施行できています。現在の適応は全部位に拡大し、側方リンパ節郭清やISRなどの高難度手術も行っています。開院以来の結腸直腸癌患者の5年生存率は、Stage 0：85.4%、Stage I：88.4%、Stage II 80.8%、Stage IIIA：77.1%、Stage IIIB：55.7%、Stage IV：18.3%でありました。これらの数字は大腸癌研究会が発表しているデータとほぼ同等の数字であります。合併症の割合についても、平成27年度は、すべての合併症発生率28.5%、縫合不全率3%、創感染率



腹腔鏡下手術の様子

10.2%、腸閉塞率4.8%と各項目で過去最高の成績でした。合併症発生率の低下に伴い、術後在院日数も年々短縮しており、開院当初、平均20日以上であったものが、ここ2年間では平均13日程度まで短縮しています。当科では悪性疾患だけでなく、良性疾患についても積極的に腹腔鏡手術を取り入れています。腹壁癒着ヘルニア、傍ストーマヘルニア、憩室炎に対する手術、などを施行しています。近年では虫垂炎に対する虫垂切除術も腹腔鏡の割合が増加し、平成28年度は62%の症例で施行しました。当院の特徴の一つとして、紹介いただいてから手術までの待機時間が短いことがあります。直近100例の手術では当科にご紹介いただいてから、平均15.6日で手術を行っていました。狭窄が強い症例などでは、紹介から数日で手術を行うこともあり、混雑等を理由に1か月以上待つ症例はほとんどありませんでした。これまでの10年間で、手術の内容、成績ともに少しずつ歩みを進めることができました。今後も研鑽をかさね、患者さん、医療関係者の方から、より信頼される病院を目指し、歩みを進めていきたいと思います。



大腸外科グループ

# 脳神経外科 —ニューロライン開始しました—

脳神経外科 部長 竹本 安 範

超高齢化社会に伴い、今後ますます脳血管障害を主とする神経救急の需要は増えるものと思われます。それに対応すべく2016年2月より神経内科、救急科と協力しニューロライン（神経系当直）を開始しました。脳神経外科医あるいは神経内科医が必ず当直し、迅速かつ専門的な診療を24時間365日体制で提供することが可能となりました。主に脳血管障害の救急搬送を念頭に置いておりますが、必ず脳神経外科あるいは神経内科のオンコール医、救急医も控えていますので、頭部外傷、てんかん、髄膜炎、脳炎、ギラン・バレー症候群など脳血管障害以外の神経救急に広く対応可能です。診療所の先生方におかれましても時間外、土日祝日に関わらずご連絡いただければニューロライン担当医が対応いたします。また脳梗塞が疑われtPA適応の可能性がある症例などは紹介状なしに救急車を要請していただければ結構です。是非ご活用ください。

入院症例は翌朝に神経内科・脳神経外科合同カンファレンスで症例検討を行っています。これにより各症例を深く掘り下げるとともに内科・外科間の連携を密とし、より質の高い診療を目指しています。

周知のように神経疾患は回復に時間がかかります。入院後は看護部、リハビリテーション科、薬剤

部、医療連携センターとともにチーム医療を実践し、早期に回復期リハビリテーション病院への転院につなげるよう努力しています。また、リハビリ終了後の維持期の診療については基本的に地域の先生方をお願いしたいと考えております。

現在、脳神経外科は以下の5名体制です。

持松泰彦（横浜市大S53年卒、副院長／間脳下垂体外科部長）、

竹本安範（横浜市大H1年卒、脳神経外科部長）、

沼上佳寛（東北大H5年卒、脳神経外科副部長）、

川崎貴史（信州大H23年卒）

笹目 丈（山形大H24年卒）

従来どおり脳腫瘍（下垂体腫瘍、髄膜腫、神経鞘腫、神経膠腫、転移性脳腫瘍など）、脳血管障害（脳動脈瘤、動静脈奇形、頸動脈狭窄症、慢性脳動脈閉塞、もやもや病など）、頭部外傷、水頭症、機能的疾患（三叉神経痛、顔面けいれん）等の治療に力を入れております。本年度からは術中モニタリング機器も導入され、手術の安全性も向上しました。今後も地域の先生方の信頼が得られるよう努力してまいりますのでどうぞよろしくお願いたします。



ニューロラインカンファレンス風景



脳神経外科 スタッフ



# 小児のアレルギー診療とアレルギーセンター事業

アレルギーセンター小児科（兼）小児科 副部長 磯崎 淳

当院には横浜市政策医療のもと「アレルギーセンター」が設置されており、関連各科と連携をとりアレルギー疾患の横断的な診療を行っています。小児のアレルギー疾患においては、小児科が主な関連科であり、磯崎（専門医・指導医）、安藤（専門医）と2名の専攻医の計4名が診療にあたっています。午前中の外来は、月～金曜日のいずれもアレルギー担当医が外来を行っています。主な対象疾患は、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎ですが、関連として慢性咳嗽、蕁麻疹、乳児湿疹なども診断、治療しています。初診は「小児科」で受け付けていますので、小児科あてに御紹介いただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、当院には「小児アレルギーエディケーター（PAE；pediatric allergy educator）の資格をもつ看護師、薬剤師が在籍しており、個別の喘息教育や吸入支援、スキンケア指導なども実施しており、アドヒアランスの向上に寄与しています。また、アレルギー科や関連各科とのぜん息カンファレンス、食物・薬剤アレルギーカンファレンスに参加し、科を超えた多職種での研鑽・診療を心がけています。

昨今、食物アレルギーの患者の増加が社会的に

も問題となっています。必要最低限の除去と摂取できる範囲での最大限の摂取を目指して、当院では食物経口負荷試験を実施しています。原則、日帰り入院で実施しており、火～金曜日入院枠を設け、速やかに実施できる体制を整え、年間約300件を実施しています。また、状況に応じ、外来での負荷試験も実施しています。

アレルギーセンターは市民の方々への情報発信、教育・啓発活動も任務としており、小児においても横浜市と連携し様々な事業を行っています。年3回の小児ぜん息・アレルギー教室、個別ぜん息相談会、保育園・児童相談所などの職員対象の食物アレルギー研修支援、小児ぜん息アレルギーサマーキャンプなど、様々なプログラムを実施しています。また、個別の研修支援として直接、各保育園・幼稚園・学校に赴いての食物アレルギー研修会などの活動も行っており、昨年度は30を超える園・学校で実施いたしました。

日本人の2人に1人は何らかのアレルギー疾患を有すると言われていています。ちょっとした診療の工夫で、患児の生活の質は大きく変わります。近隣のアレルギー専門施設として、当院への御紹介をよろしくお願いいたします。



小児ぜん息・アレルギー教室で講演する安藤医長



ぜん息アレルギーキャンプの様子


# 新任医師のご紹介

新しく就任した医師をご紹介します。今後地域の先生方と地域医療の連携を推進していきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

\*\*\* 質問項目 \*\*\*


①診療科 ②取得指導医、専門医 等 ③卒業大学 ④卒業年 ⑤趣味 ⑥地域の先生方へ一言！

ニシムラ タケロウ  
西村 卓郎




- ①循環器内科(不整脈診療)
- ②循環器専門医
- ③北海道大学
- ④平成20年
- ⑤マラソン、料理
- ⑥「精一杯頑張りますので、よろしくをお願いします。」

オカザキ ミキ  
岡崎 美季



- ①乳腺外科
- ③愛知医科大学
- ④平成25年
- ⑤旅行
- ⑥「みなとの一員として頑張ります!よろしくをお願いします。」

オカダ マユミ  
岡田まゆみ



- ①救急科(外傷初療、心肺蘇生、国際支援)
- ②救急専門医
- ③東海大学
- ④平成15年
- ⑤ランニング、ピアノ、アロマテラピー
- ⑥「大都市での救急は初めてです。宜しくお願いします。」

## DPCⅡ群病院の指定を受けました

当院は、今春、厚生労働省より、「DPCⅡ群病院(大学病院本院に準ずる機能を有する病院)」の指定を受けました。

DPCⅡ群の指定要件は、厚生労働省に提出するDPCデータにより、「診療密度」、「医師研修の実施」、「高度な医療技術の実施」、「重症患者に対する診療の実績」などの実績要件により審査され指定を受けます。

現在、全国1,667のDPC対象病院は、機能や役割に応じて「Ⅰ群(大学病院本院)」「Ⅱ群(高診療密度病院)」および「Ⅲ群(その他の急性期病院)」に分類され、指定されますが、DPCⅡ群病院は、全国で140施設しか指定されておらず、県内では当院を含め10施設となっております。

今後も、地域医療を支える高度急性期病院として、地域の医療機関との連携を図りながら、良質な医療の提供に努めて参ります。

### 平成28年度DPCⅡ群病院数

(全国140病院分布図)

群類別医療機関数	上位TOP5
Ⅰ群 81	1位 東京 20
Ⅱ群 140	2位 神奈川 10
Ⅲ群 1,446	2位 愛知 10
	2位 大阪 10
	5位 千葉 9

佐賀 1	福岡 5	大分 0
長崎 1	熊本 3	宮崎 0
鹿児島 1		

沖縄 2
------

山口 1	島根 1	鳥取 0
	広島 5	岡山 4

愛媛 1	香川 1
高知 2	徳島 2

和歌山 1
-------

石川 1	富山 1	新潟 3	福島 3	
福井 0	岐阜 2	長野 3	群馬 2	栃木 1
			埼玉 4	茨城 1
			東京 20	千葉 9
		山梨 1	神奈川 10	
		静岡 5		

北海道 4
-------

青森 1	
秋田 0	岩手 2
山形 2	宮城 3

## 紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課

電話 045-628-6365 (直通) / FAX 045-628-6367 (直通FAX)



横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号  
TEL 045-628-6100(代表) FAX 045-628-6101